

つるみこくさいこうりゅう

鶴見国際交流ラウンジニュース



Tsurumi International Lounge News

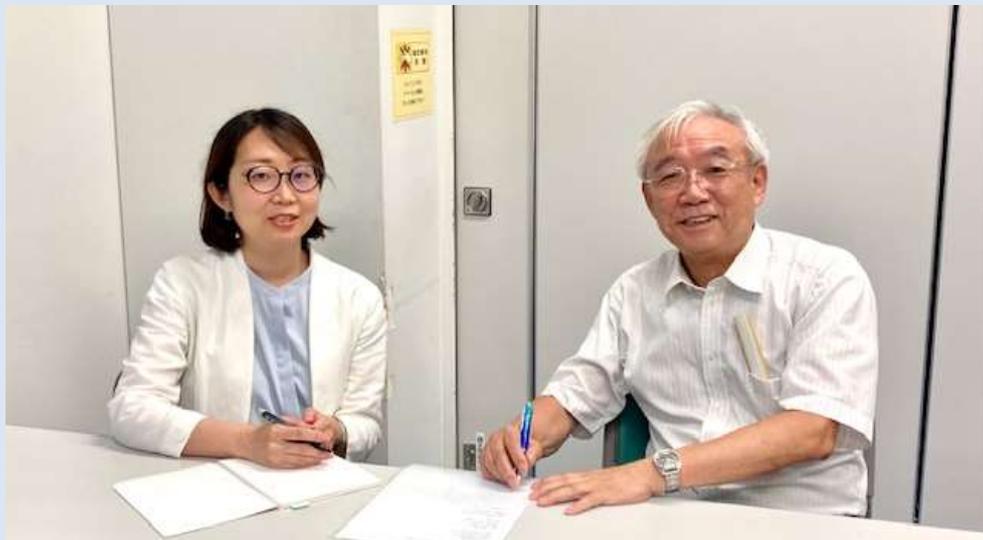
2022・10-1

No.71

—INTERVIEW— おも 想いをつなげる、つながる —INTERVIEW—

【新館長】

小林 広子 さん



【前館長】

小林 貞幸 さん

鶴見区が進める「多文化共生の街づくり」、その拠点となる鶴見国際交流ラウンジの館長を2020年4月より務めた小林貞幸さんが今年3月で退任され、新館長として小林広子さんが着任しました。偶然にも同じ名学のおふたり！鶴見ラウンジの今、そしてこれから・・・それぞれの想いをお話してもらいました。

<インタビュアー：情報部会 井上愛子 猪瀬朝子>

Q：鶴見ラウンジの館長を引き受けたとき、どのような思いでしたか？

(前館長) 小林貞幸さん：YOKE (公益財団法人横浜市国際交流協会) にて「国際協力センター」の管理



事務を担当していた時、鶴見ラウンジの館長に異動という話がありました。鶴見ラウンジについては以前から知っていたのですが、YOKEに4年間在籍していたとはいえ、国際交流ラウンジの運営に直接携わったことは一度もなく、わからないことばかりでした。迷う気持ちはありませんでしたが、少しでもお役に立てれば、という思いで引き受けました。

Q：館長就任当初、ご苦労されたことはありましたか？

小林貞幸さん：コロナ感染の拡大で、2020年3月に緊急事態宣言が発動され、ラウンジ閉館中の着任となりました。その時期、相談スタッフはメールと電話のみでの対応を行っていました。この期間にじっくりと資料や記録を読み、これまでのラウンジはどうだったのかという勉強ができました。

5月の連休明けに再び開館しましたが、苦労といえば、開館してからの方が多かったと思います。「三密回避」ということで、研修室は利用定員を下げ、団体行動は制限されるなか、これまでの活動をどう維持し、運営していくかを考えるのは大変なことでした。やめてしまうことは簡単ですが、継続していくのは大変です。皆さんと協力して、できる範囲でできることを継続してきました。学習支援教室、日本語教室などに関して言えば、コーディネーターの皆さんや教室運営の皆さんがいち早く動いて、人数を絞り、リモートを取り入れ、中断することなく活動してくれました。



交流会の事業も、回数は減りましたが年間を通してみればそれなりに活動できたと思います。情報部会についても、対面が基本だった「おしゃべり会」をオンラインでの開催に変更し、以降ラウンジとオンラインを組み合わせたハイブリッドという形で開催を継続し、現在に至ります。どんなことでも、やるかやらないかではなく、実施する工夫を皆さんと一緒に常に考えてきました。

これまで参加率がよくなかったラウンジのスタッフミーティングもオンラインで行うようにしたら、ほぼ100%の参加率になりました。これはオンラインの功績と言えるでしょう。そこにコーディネーターさんが加わることにより、スタッフ全員の意志結集、情報交換もより深く行うことができたと思います。

Q：就任中印象にのこっていることはありますか？

小林貞幸さん：コロナ禍に着任し、退任するまでコロナ禍での運営、活動だったということが一番の印象ではありますが、とにかくラウンジに関わる全員の理解と協力があって運営ができたなと強く思います。全スタッフ、ボランティア、利用者も含め、皆が方向性を一つにして、想いを共有してきたからこそ、活動ができました。また、区役所との連携もうまく取れていたと思います。区役所と一体化して行ってきた新事業も今年が3年目、徐々に成果が表れてきたのかなと思っています。6月に開催された「多文化共生フェスタ」も、今年は大々的に行うことができました。退任前にその形づくりや準備に携わることができ、本当によかったです。



— 退任にあたり、ひとことお願いします！ —

小林貞幸さん：鶴見ラウンジは、ここに集う人たちに常に寄り添う活動の拠点であり、立ち寄りやすく使いやすい場所でありたいと考え、目指してきました。また、それについては皆さんからの共感も十分に得ることができたと思います。進化はしつつもベーシックなところを保ちながら活動がつけられていくラウンジであってほしいと強く願っています。

Q: 新館長の小林広子さん、館長に着任した経緯をおしえてください

(新館長)小林広子さん: 以前より「国際交流」に興味があり YOKE の職員募集に応募しました。2020年3月までインドネシアの高校で日本語を教えており、そのような経験を生かせる仕事を探していましたが、まさかラウンジ館長という立場になるとは思っておらず、自分に務まるのかとても不安でした。

Q: 就任当初、戸惑ったことはありますか？

小林広子さん: 「館長」という職務自体に戸惑うことからのスタートでしたが、実際着任して仕事を始めてみると、鶴見ラウンジに関わる方々は本当に素晴らしい人達ばかりでした。ラウンジスタッフ、相談スタッフ、コーディネーター、ボランティアの方々、皆さんがラウンジを盛り上げてくださり、皆さんに大変温かく迎えていただき、当初の不安はすっかりなくなりました。一方で、館長の仕事の一つに「施設管理」という事がありますが、現在ガス代などの価格高騰もあり、皆さんの身体を守ることやコロナ感染対策を第一に考えながらも経費をどう抑えていくかという現実的な問題に直面しており、これは戸惑いの一つになっています。



Q: これまでのラウンジについての印象は？

小林広子さん: 館長に着任する以前は、「国際交流ラウンジ」をよく知らなかったもので、「どんなところだろう?」という印象でした。実際に来てみたら、皆さんの雰囲気がとてもよくて、鶴見という外国の方がとても多い地域に根差した、利用する方々に寄り添う素晴らしい「居場所」になっていると感じています。

Q: 自己PRをお願いします

小林広子さん: これまでの職務経験の中で、ラウンジ業務に生かせることが少しはあると感じています。最初に入社した通信会社では「法人対応」「苦情対応」を担当しました。様々な相談が日々寄せられるラウンジではその経験も生かせたらと思います。その後転職したメディア業界では、多くの人と出会い、話を聞き、取材する側としてたくさんの情報を届けてきました。また、カルチャーの異なるインドネシアの高校で日本語を教える経験もしました。「人生に無駄はない」。すべての経験をこれからのラウンジ業務で生かしていきたいです!

— 今後の抱負を聞かせてください! —

小林広子さん: 「小林貞幸さん語録」として私が大切にしている言葉をふたつ紹介します。前館長の素晴らしい言葉とラウンジへの想いを引き継いでいきます!

「出かける勇気と迎える気遣い」 鶴見区には現在約14,000人の外国の方が住んでいます。外国につながる方がラウンジに行こうとする時、「日本語が話せない」など不安なことが多いはず。勇気を出してラウンジに出かけてもらい、そして来てくれた人に対して私たちは「来てよかった」と思ってもらえるよう、温かい気遣いでお迎えし、ラウンジが多文化共生のまちづくりの拠点となるよう努めていきたいと思っています。

「片付けは次への段取り」 前館長は、いらぬものは早々に処分し、常に整理整頓を心掛け、ラウンジ内を清潔に保っていました。これはもちろんコロナ対策にもなりますし、また新たな空間ができるだけでなく、新しいアイデアが生まれたり、人間関係など様々なことが良い方向につながっていくと信じています。

K&K Talk — 聞きたい／伝えたい —

多文化共生のまちづくりの拠点「鶴見国際交流ラウンジ」



ラウンジではスタッフの雇用形態、働き方、また国籍や背景も様々です。どのようにまとめてこられたのですか？



ちがいを理解して、寄り添うことが重要だと思います。日本語が出来ない人に日本語を教えるのが日本語教室。日本語がすべて理解できなくて当たり前です。スタッフは誰もが同じ条件の下で仕事をしているわけではありません。これらは「差別ではなく区別」です。常にそういう気持ちで接していくことが大切だと思います。そして大いに語り合うことです。相手の想いも聞き、自分の想いも伝える、コミュニケーションこそが重要です。「おしゃべりは無駄じゃない」のです！

— Best wishes おくることば —

私は「狭いながらも楽しいラウンジ」と思いながら運営してきました。ラウンジが存在する目的は何か、どう期待されているのか、どうあるべきかを常に念頭において、活動を継続、発展していくことが大事です。また、変えることをためらってはいけません。「片付け」も「変革」の一つです。何かを変えることを恐れずにチャレンジしてほしいと思います。

「館長」という立場としては、マネジメントという役割もあります。「人を信じて仕事を疑う」という姿勢を持つといいと思います。人が強い信念をもって成し遂げようとする姿勢は信じて、一緒にやってみましょう。でも人は誰でも間違いをするし、失敗します。行っている業務に対しては常に確認をすることが重要です。

インタビューを振り返って

現在の素晴らしい鶴見ラウンジを作ってきた小林貞幸前館長、そしてその想いを引き継ぐ小林広子新館長。お二人の共通点は、ラウンジへの真摯な想いと関わる人全てを気遣う姿勢。今後ますます発展していくラウンジの未来に改めて期待を感じました。貴重なお時間をいただき、本当にありがとうございました。



【特集】2023年4月から 保育所や 幼稚園などに 子どもを 預けたい 人に！

鶴見区には 0～5歳児の 子どもを 預けることのできる 保育園や 幼稚園が あります。2023年4月1日から 保育所や 幼稚園などに 子どもを 預けるための 相談をしたり 案内を もらうことが できます。

■案内を もらえる 日

2022年10月12日（水曜日）から もらえます。

■もらえる 場所

鶴見区役所子ども家庭支援課（3階4番窓口）、
鶴見駅西口行政サービスコーナー、
鶴見区内の 認可保育所や 地域ケアプラザ、
わっくんひろば、親と子のつどいのひろば など



☆【就労（予定）証明書※】のみ 2022年10月3日（月曜日）から もらえます。
（鶴見区役所か 横浜市ホームページのみ）

※働いていること（これから働くこと）を 書く 紙のこと

■一次申請（1回目の申込み）ができる期間

郵送で 申請する場合：2022年10月12日（水曜日）から 11月2日（水曜日）まで
※窓口には たくさんの 人が きます。新型コロナウイルス感染症を ひろげないよ
うに できるだけ 郵便で 送るように お願いします。

申請が 11月2日（水曜日）までに 間にあわないときは 鶴見区役所子ども家庭
支援課で 受付をします。受付をはじめる日は 案内を 確認してください。

鶴見区役所子ども家庭支援課に 出せるのは 11月16日（水曜日）までです。

（電話：510-1816）



障害のある 子どもの 申請や 書き方の 相談は

鶴見区役所子ども家庭支援課に

いつでも 相談してくださいね。（電話：510-1839）

編集・発行：鶴見国際交流ラウンジ情報部会 URL <https://www.tsurumilounge.com>

横浜市鶴見区鶴見中央1-31-2 電話045-511-5311 ファックス045-511-5312

いのせあさこ いのうえあいこ きくたけこうへい いがくみこ
猪瀬朝子、井上愛子、菊武浩平、伊賀久美子

翻訳：ながいみはる やましたいすみ しんすじょん いしはら はせがわ あべかよこ
長井美春、山下伊澄、申水貞、石原みどり、長谷川スーサン、安部香代子、レ・ダン・コア